6 亜熱帯のジャングルもある臨海コース 南伊豆歩道(3)（吉田―妻良）（一般向）

歩程 約2時間25分

南伊豆歩道・吉田―妻良コースは、吉田と妻良が起終点。中木―吉田と歩いてきたら、このまま妻良まで歩いたら良い。時間的に厳しくなりそうであれば、宿泊を伴ったゆとりのある計画を立てる必要がある。

このコースだけを歩くのならば、吉田口のバス停から2km強でコースの入口に到着する。

この南伊豆歩道・吉田―妻良コースは、初めの1km（約30分）が林間コース、次の200m（約10分）が牧歌的な雰囲気の草原コース、続くコース中間地点までの700m（約20分）がジャングル景観コース、妻良側に回って900m（約30分）が臨海コース、残り妻良までの1・2km（約30分）が林道コースとなっている。

妻良へ約4kmの案内標識から山道に入る。右に深い川を見て、ツバキやアオキなどの灌木の中を上って行く。丸太の段や石の段、時には石を敷いたような上りもある。

林間コースといわれるだけあって灌木が茂り、まったく展望がない道が続く。

上り始めて30分くらいで右に大きく曲がる。吉田から、まだ800mの付近だ。少しきつい丸太の段を上り切ると海をのぞむ断崖の上に出る。左下に大きな島が見える。このあたりからスズ竹の下りとなり、次第にカヤの茂る草原へと道が続く。

▲ジャングル景観コースを行く

草原コースを抜けて灌木の中に入った所にベンチとコース解説板がある。

『これより南（つまり今歩いてきた道）は「かや」のはえた牧歌的な雰囲気のコースとなります。昔はかや場として屋根材、花ども、炭俵などに使う材料を作っていた所です。

これより北は、足元を「じゅうもんじしだ」や「きよたけしだ」などのシダ類が覆い、樹の幹に「きづた」や「フウトウカズラ」などの、つる性植物が繁茂した緑一色のジャングル景観となります。』

フウトウカズラはコショウ科の常緑つる性の木で、初夏に黄色い花穂をつけ、冬には球形の赤い実が穂になって垂れる。実は薬用になる。

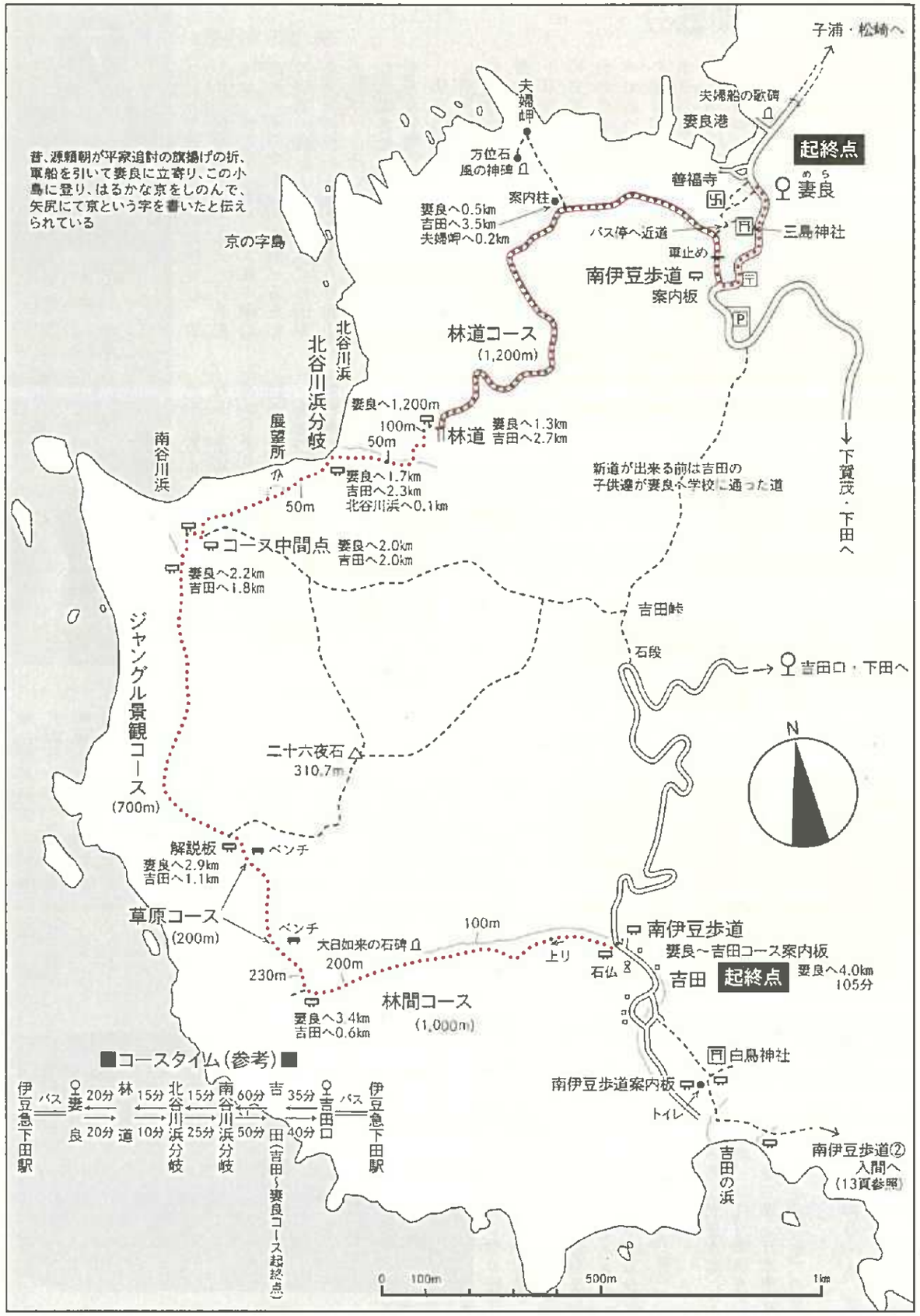
ジャングル景観コースが終わると南谷川浜への分岐。ここを少し上った所がコースの中間地点である。左に上がっていくと、眼下に京の字島、遠く子浦から名勝伊豆西南海岸が一望できる。海岸線にへばりつくような集落は落居、伊浜…。左手の高い山は波勝崎だ。

左にこの展望を見ながらの臨海コースは、この先にベンチがある展望所がある。

かなりきつい急な丸太の下りから、石段の下りに石段の下りに変わり、少し先で木のハシゴを下りて木の橋を渡る。

北谷川浜への分岐を右に、沢沿いに上る。ここもかなりきつい上りなので足元に注意して歩こう。岩を削った石段から丸太の階段に変わり、上り切ると林道に到着する。

妻良まであと1・2km。途中、左に5分ほど入った所に展望の良い夫婦岬（案内看板あり）がある。高台の展望所には方角石と風の神が祀られている。

林道をのんびりまっすぐ行けば国道にぶつかる。左に下れば妻良のバス停に到着する。

▲京の字島方面の展望